

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術・音楽 I	2	高校生の音楽 1 (教育芸術社)	
科目の概要と目標	音楽における学習活動を通して、音楽的な知識・経験を増やし、豊かな心情を育て、社会の中で音楽や音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。		
単元	学習内容	到達度目標	
豊かな声で歌おう	発声の基礎を学び、様々なジャンルの歌を歌う。	よい響きの声で歌い、仲間とハーモニーを楽しむことができる。	
外国の歌曲を歌おう	イタリア語とドイツ語の特徴を生かした歌を歌う。	イタリア語やドイツ語の歌曲に関心を持ち、それぞれの言語の違いを理解して歌うことができる。	
日本の歌曲を歌おう	日本語の歌詞に親しみ、曲の速度や強弱に気をつけて歌う。	日本歌曲の特徴や、歌詞の内容を理解して、ふさわしい歌唱表現を探ることができる。	
創作をしよう	好きな歌に伴奏をつけたり、音符や休符を組み合わせる簡単なメロディーを作ったりする。	歌にふさわしい伴奏を考えたり、メロディーのイメージをもって創作に取り組むことができる。	
箏を弾こう	箏の構造や、箏の奏法を理解して箏を演奏する。	箏の調弦をし、箏曲の楽譜を見ながら正しい奏法で演奏することができる。	
オペラに親しもう	オペラの内容や、アリア(歌)、オーケストラの編成などについて学び、鑑賞する。	オペラの内容を理解して鑑賞し、アリアの違いを聴き取ったり、人物の心情を感じ取ったりすることができる。 オーケストラの編成について学び、楽器や奏法について知ることができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道 I	2	書 I (光村図書)	
科目の概要と目標	書道の幅広い活動を通して、書の知識・表現・鑑賞の基礎的な資質や能力を身に付ける。書の伝統と文化に親しみ、書的美を味わい、社会生活を心豊かに創造していくことができる。		
単 元	学習内容	到達度目標	
書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> 文房四宝について 書の分野・書体について 	<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解することができる。 漢字の成立と変遷について理解することができる。 	
漢字の書 (楷書)	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の用筆法 楷書古典の鑑賞と臨書 (九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑・顔氏家廟碑・雁塔聖教序) 創作と鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や臨書によって、書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解することができる。また、楷書の伝統と文化について理解することができる。 それぞれの古典の用筆、運筆法を理解して臨書することができる。また、古典の価値やその根拠について考えることができる。 古典に基づく用筆・運筆を実践し、線質・字形や構成を生かした表現をしたり鑑賞したりすることができる。 	
漢字の書 (行書)	<ul style="list-style-type: none"> 行書の用筆法 行書古典の鑑賞と臨書 (蘭亭序、風信帖) 創作と鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や臨書によって、書体や書風と用筆・運筆との関わりを理解することができる。また、行書の伝統と文化について理解することができる。 それぞれの古典の用筆、運筆法を理解して臨書することができる。また、古典の価値やその根拠について考えることができる。 古典に基づく用筆・運筆を実践し、線質・字形や構成を生かした表現をしたり鑑賞したりすることができる。 	
漢字の書 (篆刻)	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞 氏名印の制作 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における篆刻の効用、書作品との表現効果や風趣との関わりについて理解を深め、味わうことができる。 篆刻の基本的な技法を身に付けることができる。 	
仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立 平仮名、変体仮名の用筆法 連綿法 平安古筆の鑑賞と臨書 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の書の成立過程と字源について理解し、関心をもつことができる。 仮名の線質、字形について理解し、基本的な用筆法を習得する。 連綿に慣れリズムよく書くことができる。 古筆の鑑賞により、仮名の書の良さや美しさを感じることができる。 紙面構成、連綿、変体仮名の配字、墨継ぎなどの表現方法を理解しながら臨書することができる。 	
漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> 創作 (漢字と仮名の調和、用具・用材の特徴と表現効果、用筆・運筆、紙面構成) 鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や用途に即した効果的な表現をすることができる。これまでの知識や技能を生かし、漢字と仮名を調和させた制作ができる。 名筆や現代の書の表現を比較・考察し、作品の価値や根拠について自分なりの価値観をもつことができる。 	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術 I	2	美術 I (光村図書)	
科目の概要と目標	美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。		
単元	学習内容	到達度目標	
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と美術、生活や社会の中の美術 ・作品及び作家に関する研究 ・鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、また自然と美術の関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めることができる。 	
絵画	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆デッサン (身近なものを描く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を深く見つめ、感じ取ったことから主題を生成することができる。 ・形体や明暗を工夫して、表現の構想を練ることができる。 ・鉛筆の特性を理解し、効果を生かして表現することができる。 ・描くことの楽しさを感じ取ることができる。 	
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・マークやサインで伝える ・作品鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色のよさや美しさだけではなく、誰が、どこで、どのような状況で使うか考え、工夫することができる。 ・機能や美しさに加えて、遊び心のあふれるデザインを創造し表現することができる。 ・作品制作のコンセプトを、短時間のプレゼンテーションで行うことができる。 	
彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ・立体作品の制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチーフをしっかりと観察し、表現することに関心を持ち、立体的に表すにはどうすればいいか考え、表現できる。 ・モチーフの特徴を表すために、効果的なデフォルメや強調表現を交え、表現できる。 ・材料や用具の特性を理解し、効果を生かして表現することができる。 	
映像メディア表現	<ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションの基礎 ・映像作品鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・止まったものが動いて見える原理を理解し、残像現象を利用した動きや変化、ストーリーなどを理解する。 	